

# 第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 13010010

政策目標	1	はつらつ・雄武～地域産業の振興～	会計区分	1	一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	1	農業の振興	事業優先度	B		
単位施策	1	土地基盤の充実	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)		
事業名	水土里情報システム利活用事業		見直し年度			
事業期間	平成25年度～平成29年度		担当課	13 農業委員会		
事業主体	雄武町		関係課	9 産業振興課		
事業指標	農地の有効利用の促進			#N/A		
事業目標	農地情報の共有化		ハード/ソフト 事業区分	2 ソフト事業		
住民参加	無		関係例規・法令名			
住民協働			関係個別計画名			

		平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
全体計画 事業内容		事業内容	事業内容	事業内容	事業内容	事業内容
計 画 内 容	◎水土里情報システムの利用	○水土里情報システムの利用	○水土里情報システムの利用	○水土里情報システムの利用	○水土里情報システムの利用	○水土里情報システムの利用
	事業費(千円)	556	100	103	103	125
計 画 事 業 費	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	0				
一般財源	556	100	103	103	125	
実 績 事 業 費	事業費(千円)	430	100	103	103	124
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	0				
一般財源	430	100	103	103	124	
関 連 事 項	特定財源の名称		(実施内容等) 水土里情報システムの利用	(実施内容等) 水土里情報システムの利用	(実施内容等) 水土里情報システムの利用	(実施内容等) 水土里情報システムの利用
	【評価・実績】		※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持
	前記計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	農地情報の共有化	農地情報の共有化	農地情報の共有化	農地情報の共有化
	第6期計画への継続 (継続有り)	年度達成率	100%	100%	100%	99%
		全体達成率	18%	37%	55%	77%
	備考欄					

事業名	水土里情報システム利活用事業	評価者 管理職 職氏名	農業委員会事務局長	横田 和幸
		評価者 作成者 職氏名	農業委員会農地係長	花松 賢一

様式1  
平成28年度実施  
平成29年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	農地関係情報	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	水土里情報システムの利用	
【抱える課題やニーズは】	農地関係情報が複雑化・煩雑化している。	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	農地地図情報及び農地関係情報を有効利用し、適切な農地管理を図る。	① 水土里情報システムの利用	目標年度 目標値	平成28年度 1式
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	耕作放棄地の把握や未然防止及び農業者の農地集積を図る。	②	実績値	1式
			達成度	100.0%
			目標年度	平成28年度
			目標値	
			実績値	
			達成度	#DIV/0!%
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	水土里情報システムの利用	水土里情報システムを利用し、適切な農地管理を図った。		

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	耕作放棄地の把握や未然防止及び農業者の農地集積を図るため、必要な事業である。
必要/概ね必要 /課題あり	<input type="checkbox"/>	全部 一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	水土里情報システムの有効利用により、農業者の農地集積が推進されるなど、適切な農地管理が図られた。
有効/概ね有効 /課題あり	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	インターネットで閲覧するため、システム使用料以外の負担がなく、農地整備係との共同負担により情報を共有化していることから、効率的であると判断する。
効率的/概ね効率的 /課題あり	<input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員削減 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	水土里情報システムの利用により、農地情報等の有効活用を図るとともに、適切な農地管理を図っていることから、公平性は保たれていると判断する。
公平/概ね公平 /公平でない	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある <input type="checkbox"/> 受益者負担がない <input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る <input checked="" type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A～D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等  
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等  
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等  
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
<b>A</b>		
農地地図情報及び農地関係情報を有効に活用し、適切な農地管理を図ったことから効果的な事業実施が図られていると判断する。		

今後の展開方向  
(Action)

継続/現状維持		
今後も適切な農地管理を図るため、農業者に対する農地利用集積の円滑化に有効な事業であり、耕作放棄地の未然防止等にも繋がることから、本事業を継続して実施していく必要がある。		

※展開方向の区分  
○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更  
○終了 ○休止 ○廃止

# 第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 13010020

政策目標	1	はつらつ・雄武～地域産業の振興～	会計区分	1	一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	1	農業の振興	事業優先度	B		
単位施策	2	担い手(人・組織)の強化	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)		
事業名	雄武町農業後継者対策事業		見直し年度			
事業期間	平成25年度～平成29年度		担当課	13 農業委員会		
事業主体	雄武町		関係課	9 産業振興課		
事業指標	酪農研修実習生受入人数			#N/A		
事業目標	5名/年		ハード/ソフト 事業区分	2 ソフト事業		
住民参加	無		関係例規・法令名			
住民協働			関係個別計画名			

全体計画 事業内容		平成 25 年度 事業内容	平成 26 年度 事業内容	平成 27 年度 事業内容	平成 28 年度 事業内容	平成 29 年度 事業内容	
計 画 内 容	◎雄武町農業後継者で配偶者を求める者を対象として、広い範囲にこれを求める事業を積極的に推進し、後継者の経営の安定化を図るとともに、就労促進支援を図る。	○雄武町農業後継者対策協議会への負担金	○雄武町農業後継者対策協議会への負担金	○雄武町農業後継者対策協議会への負担金	○雄武町農業後継者対策協議会への負担金	○雄武町農業後継者対策協議会への負担金	
	・酪農体験実習事業の実施。 ・北海道担い手センターをはじめとする関係団体との連携を図り、農業担い手対策事業を実施。 ・後継者のパートナー対策事業の実施。						
計 画 事 業 費	事業費(千円)	1,250	250	250	250	250	
	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
	その他	0					
一般財源	1,250	250	250	250	250		
実 績 事 業 費	事業費(千円)	1,000	250	250	250	0	
	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
	その他	0					
一般財源	1,000	250	250	250	250		
関 連 事 項	特定財源の名称	(実施内容等) 雄武町農業後継者対策協議会への負担金	(実施内容等) 雄武町農業後継者対策協議会への負担金	(実施内容等) 雄武町農業後継者対策協議会への負担金	(実施内容等) 雄武町農業後継者対策協議会への負担金	(実施内容等) 雄武町農業後継者対策協議会への負担金	
	【評価・実績】	※事務事業評価結果 B-継続/現状維持	※事務事業評価結果 B-継続/現状維持	※事務事業評価結果 B-継続/現状維持	※事務事業評価結果 B-継続/内容の見直し・変更	※事務事業評価結果	
	前期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値 実習生受入(5名/年)	100%	100%	100%	100%	0%
	第6期計画への継続 (継続有り)	年度達成率	20%	40%	60%	80%	80%
		全体達成率					
	備考欄						

事業名	雄武町農業後継者対策事業	評価者 管理職 職氏名	農業委員会事務局長	横田 和幸
		評価者 作成者 職氏名	農業委員会農地係長	花松 賢一

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	未婚の農業後継者	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	農業青年交流会の実施及び酪農体験実習の受入	
【抱える課題やニーズは】	農業後継者の未婚率が高く、経営意欲の減退や後継者不足により、離農が進んでいる。	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	農業後継者の結婚を支援し、経営意欲の向上と家族農業経営の安定化を図る。	① 農業後継者花嫁対策事業「農業青年交流会」の参加者	目標年度	平成28年度
			目標値	5名
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	離農を抑制することにより、地域の基幹産業としての安定的な発展と持続的な力強い農業の振興を図る。	② 酪農体験実習生の受入	実績値	7名
			達成度	140.0%
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	農業青年交流会の開催(1回)	未婚の農業後継者を対象として、札幌市のホテルを会場に実施した。		
	酪農体験実習の受入	町ホームページにより周知・募集を行うとともに、2名の実習生を受入した。		

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	農業は、地域経済を支える基幹産業であり、離農を抑制するためにも後継者対策は必要な事業である。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

概ね有効	<input type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	農業後継者花嫁対策事業である「農業青年交流会」では、これまで3組が結婚に至っており、今後も事業効果が期待できる。また、酪農体験実習については、平成23年以降の2名を受入したが目標値の5名までには至らなかった。
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/>	達成	
課題あり	<input checked="" type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input type="checkbox"/>	判断の理由	農業青年交流会の実施については、農協や農協青年部等との調整を図るとともに、結婚相談所のノウハウを生かした企画・運営により効率的で効果的な事業実施が図られた。
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
	<input type="checkbox"/>	人員削減	
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

公平	<input checked="" type="checkbox"/>	判断の理由	事業費については、農協と町が負担しており、また、農業青年交流会については、参加者から応分の負担を徴収して実施していることから、公平性は保たれていると判断する。
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

- A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
<b>B</b>		
<p>農業青年交流会については、新たな結婚相談所に相談、実施したことにより、目標値の参加者数を超える人数が参加し、効果的な事業実施ができたものと判断します。また、酪農体験実習の受入については、平成23年以降の2名の受入となったが、目標値まで至らなかった。</p>		

今後の展開方向  
(Action)

継続/内容の見直し・変更		
<p>平成29年度、農協に担い手対策課が設置されたことにより、今後は興部町とも連携した取組みを進めることとなるため、総合的な担い手確保対策について、関係機関と協議を進めていく必要がある。</p>		

- ※展開方向の区分
- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
  - 終了 休止 廃止